

平成25年白川町議会第3回定例会における町長所信表明

いにしえの歌人が

「秋きぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ 驚かれぬる」

まだまだ日中は、残暑厳しい毎日ではありますが、私の住まいする山里は、もう秋本番。秋は山から下りて来るものだと実感いたすものであります。

4期16年、白川町の発展のためにご尽力いただきました今井良博前町長さんにおかれましては、この度、大きなご決断をもってご勇退なされましたが、その功績は枚挙にいとまがありません。そのご労苦に対し深甚より敬意を表し、感謝御礼申し上げます。

前町長さんをはじめ歴代町長さんが営々として築いてこられました白川町を護り育て、次の世代に発展させて委ねるのが、私の責任と考え、全身全霊を傾けて努力させていただきます。

私は今回「みんなでやろまいか」という言葉を掲げました。町づくりは、一部の人間だけでやることではありません。世代を超えた町民全体の力でやっていくべきことだと考え、あえてこの言葉を使わせていただきました。

そのためには、よりきめ細やかな住民の皆様との対話の場の設定が必要と感じております。そして、現場第一主義を掲げ、職員はより多く現場へ出向き、なまの住民の皆様の意見をお聞きすることに心がけたく思っております。

どのような町をつくりたいかと申しますと、

「ほっと一息、心癒される町づくり」

を掲げました。かつて『国家の品格』という本が話題になりました。国にも品格というものがある。同様、町、地域にもそうしたものがあると考えます。それは、高い道徳性であり、美しい田園風景、山村風景、そして先祖代々受け継がれてきた伝統、文化だと考えます。これらは、決して一朝一夕にできるものではありません。先人の恩恵に感謝し、また自らも、町の品格向上のため、努力いたさねばならぬと決意いたすものであります。

そんな町には、町外からお越しになるお客様も、また帰って来られる町民の皆様も、中におられる住民の皆様も、ほっと一息つけ、リラックスできる、アットホームな町になればいいなと考えます。

急激に進む少子高齢化。65歳以上の占める割合は、38%にもなります。本年度、出産予定人数は30人を切りそうであると聞き及びます。驚愕する数値であります。ありとあらゆる対策の必要性を痛感いたします。単に子育て支援だけでなく、魅力ある町をどうつくっていくか、みんなの叡智が必要であります。

若者の雇用の場の拡大、より選択幅のある職種、居住空間の充実、利便性の向上などなど、課題は山積しています。中でも空き家バンクの創設を計画し、田舎暮らしに興味ある方々の呼び込み等も事業として展開できたらと考えます。

老人福祉についても、生涯現役をスローガンとし、老いても社会との関わりを持ち続け、元気な老後を楽しんでいただけるような、そんな施策を計画したいと考えます。さらには、老人福祉ネットワークづくりで、相互扶助の精神を培い、高齢化社会の見本的町にしたいと思っております。

高齢化は産業の分野にも及びます。今後、農林業の生産をどう維持していくか、大きな課題であります。作業請負組織の充実をはかり、通年雇用のできる体制づくり、機械化に対応できる基盤整備、林道網の充実等の施策を継続して実施したいと考えます。また、一次産業の六次産業化等きめ細やかな施策も研究、実際行動を起こすことに前向きに努力したいと考えます。

リニア中央新幹線は、東濃地域に大きな変革をもたらすものと期待しており、13年後を見据えた白川町の未来像を描き、具体的施策を実施することの重要性を痛感いたしており、早急に検討に入りたいと考えております。

一方、道路、橋梁、公共施設、簡易水道施設等、老朽施設の改修は急を要します。これらについては、年次改修計画を立て、実施してまいりたいと考えております。国道、県道の二車線化の促進、生活道路網の整備等についても継続して要望し、道路づくりにより地域をどう変えていこうかといったビジョンも示していく必要があると考えます。

さらに、健康長寿のまち日本一、安心安全のまち日本一を目指し、関係各位のお力添えをお願いし、高齢化が日本の平均より20年進んだこの町を、全国のモデルになるような、そんな町に変えてまいりたいと思うものであります。

財政改革は必要であります。単に町の行政運営が豊かになるということではなく、そこに生活する住民の皆さんの生活が豊かになることが大切だと考えます。

いずれの項目も、全町民の参加が前提であり、本当に「みんなでやろまいか」という言葉をもって、私の町長就任の所信表明とさせていただきます。

平成25年9月24日

白川町長 横家敏昭